

---

# 16回目のクリスマス

紅 恋

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

16回目のクリスマス

### 【Nコード】

N4192P

### 【作者名】

紅 恋

### 【あらすじ】

クリスマス・・・それは俺にとっての嫌な行事

勝者と敗者がはつきりと見せつけられ

勝者には楽しい時間が

敗者には惨めな時を

送られる

そんないやな日それが俺にとってのクリスマスだった

16回目の12月25日それは俺にとっての最悪な日だった。

目の前に幸せそうな笑顔をしたカップルが通り過ぎる。

「失敗した・・・」

学校でも家でも嫌な事しか考えられなかったから  
気分転換にと、街に出てみたが、こつも目の前で見せつけられると  
より、気分が暗くなる。

俺だって、好きでクリスマスに一人にいるんじゃないっの  
本当は、学年でトップクラスで可愛い橘さんとデートでもしたか  
ったさ

”彼女”だったらな・・・

そうこうしている間に広場に行き着いた。  
そこには、巨大なツリーが色鮮やかに飾り付けされ  
注目を浴びていた。

「きれいだな・・・」

ツリーは神秘的で幻想的な美しさを放っていた。  
その光は、俺の心の隙間を刺すように輝いている

「寒い・・・な」

ベンチに座り、買っておいたコーンポタージュを飲んでいると、空から、白い雪が降ってきた。

「珍しいな、この地域に振るなんて・・・」

雪が降るなんて何年ぶりだろうか・・・

こうして16年目のクリスマスはホワイトクリスマスになった・・・

雪が降ってきた事で寒さが増した感じがした

俺はジャケットの襟に首をすばめながら、缶を持つ、  
確かあそこの角にゴミ箱があるはず・・・そんな事を考えていた俺に  
女の人の声がかかる。

「あの・・・すみません」

ん？カメラで撮ってくれとかかな？

「なんで・・・す・・・か？」

目の前には橘さんがいた。

なんでこんな所に橘さんが！？

混乱した俺に橘さんはさらに俺を混乱させた。

「あの、裕樹君に聞いてほしい事があるんだけど」

俺の名前を覚えてくれてたんだ・・・

「な、何でしょうか」

「裕樹君、私とつき合ってください!」

「へ?」

このお方はなんとおしゃったのか?つき合ってください?俺と?

様々な疑問が瞬時に思い浮かぶ、がやはり結論は一つ

「俺で、良ければ喜んでお願いします」

俺たちは手をつなぎ歩き出す。

聞いた話によると、前から橘さんは俺の事が好きだったらしく友人に何度も相談した結果、クリスマスに告白・・・という事になったらしい

こうして

俺の16回目の12月25日は最高な日になったのである

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4192p/>

---

16回目のクリスマス

2010年12月11日00時55分発行